

# 協会けんぽ福岡支部調査研究事業 (2か年計画)

服薬アドヒアランスの向上と医療費適正化を目指して

**全国健康保険協会 福岡支部**

**平成30年2月**

# 1. 研究概要

## 【研究概要】

本研究は、医療保険者の立場から、加入者の服薬アドヒアランス※1の向上と医療費の適正化を目指し、加入者（患者）の服薬状況等に関するレセプト分析（医科・調剤）並びに医薬品適正使用促進のための事業スキームの構築を目指すものである。

協会けんぽ福岡支部加入者  
(被保険者／被扶養者)

※1患者も薬を理解し、積極的に治療方針決定への参加をすること

協会けんぽ福岡支部  
(委託先：株式会社キャンサーズキャン)

### 【H29年度（1年目）】 服薬状況等に関する調査研究の実施

1. 服薬状況の実態把握（多剤投薬、相互作用・併用禁忌等の実態把握
2. 上記1. の追加分析
3. 多剤投薬、相互作用・併用禁忌等にかかる薬物有害事象の分析

共同  
研究

共同研究者

- 1) 東京大学大学院 薬学研究科
- 2) 京都大学大学院 医学研究科

本研究事業にかかる専門的知識の教授及び助言等の実施  
○レセプトデータの分析  
○アンケート実施にかかる内容作成及び調査結果の分析等

### 【H30年度（2年目）】 分析に基づいた事業の実施と評価

1. 薬物有害事象に関する追加分析
2. お薬手帳の活用促進事業の実施と評価（福岡県医薬品適正使用促進連絡協議会※2における新規事業との連携；お薬手帳ホルダーの送付）

協力  
連携

福岡県医師会、薬剤師会等

○お薬手帳の活用促進事業の情報共有  
上記のほか、必要に応じて協力・連携

加入者（患者）の服薬アドヒアランスの向上

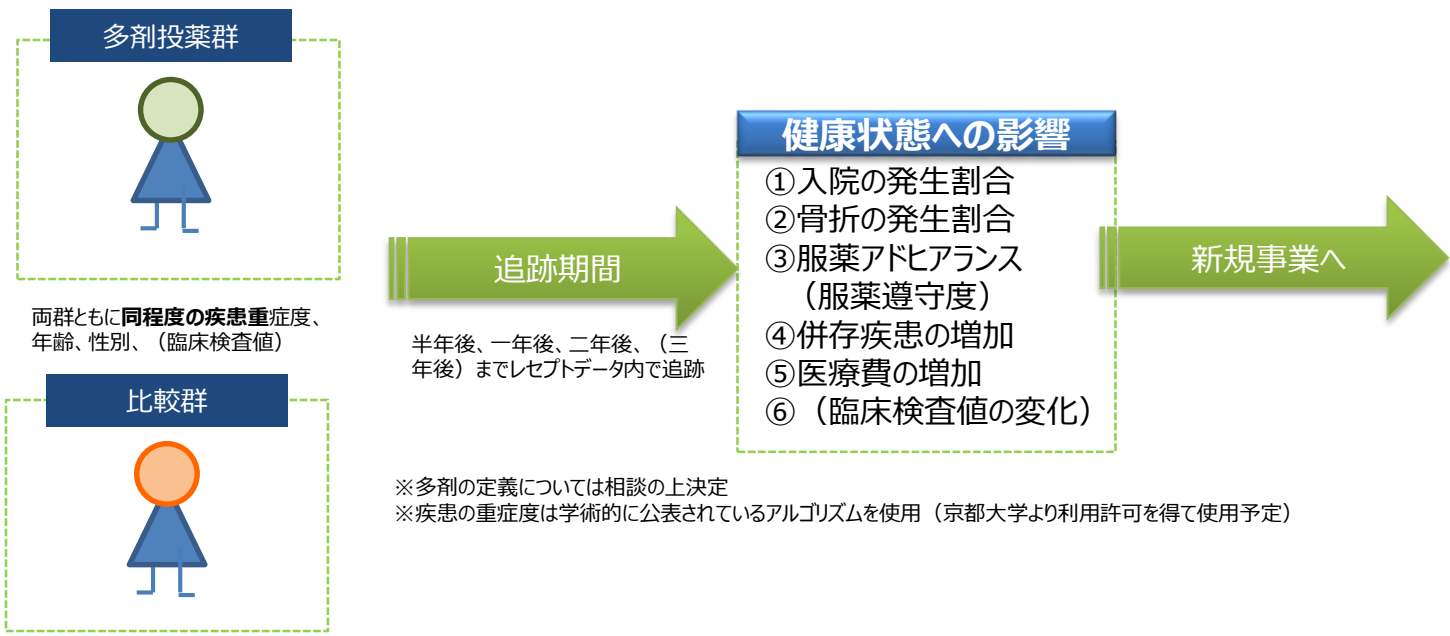
⇒ 服薬（多剤、禁忌など）による有害事象発生の回避  
多受診、重複受診、残薬問題への対応など

※2平成30年度よりポリファーマシー対策を目的に発足（事務局；福岡県薬務課）学識経験者、福岡県医師会、福岡県薬剤師会、福岡県看護協会、全国健康保険協会福岡支部等9団体で構成。議長は東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座 秋下雅弘教授

## 2. 追加分析（研究デザイン・研究方法）

### 多剤等該当者の薬物有害事象等への影響を分析

- 同程度の疾患重症度の患者を対象に、「多剤投薬」であることが、そうでない場合に比べて、どの程度健康状態に違いがあるかを明らかにする。
- 精神疾患患者や精神薬の服薬者に限った多剤等の分析も検討中



### 多剤等該当者/減薬者の特性に関する分析

- 「多剤投薬」を受けている対象者は、どのような対象者なのか？健康意識が高い？低所得者？など、既存のデータを用いてより詳細に明らかにする。
- 「多剤投薬」を受けていた対象者のうち、「減薬」した対象者はどのような特性なのか？既存のデータを用いてより詳細に明らかにする。
- 明らかになった知見を、今後の多剤投薬の改善に関する保健事業に活かす。

## 3. 介入（お薬手帳ホルダー送付）

### 「福岡県お薬手帳の活用促進事業」と同じ事業スキームで実施

#### [対象者の条件と送付時期]

同一月に複数の医療機関から、30日以上同一薬効の投与を受けている重複服薬者（18歳以上）約5,000人に対し、平成31年3月頃送付する予定。効果検証はレセプトで確認する。

#### [リーフレットの内容]

福岡県が作成したリーフレットを使用

#### [送付物 5点]

- 送付状
- リーフレット（1枚）
- マジックテープ付きお薬手帳ホルダー（手帳2冊、診察カード、保険証、その他カード類）
- 使用感アンケート（1枚；質問4つ）
- アンケート返信用封筒

#### [評価]

- ホルダー送付から6か月後のレセプトで確認（重複服薬の減少等）
- ホルダーの使用感を確認（ホルダーの質的改善）→31年度事業へ

### アンケート内容

質問1；普段お薬手帳を持参して医療機関へ受診していますか？（持参する、持参しない）

質問2；今回送られてきたお薬手帳ホルダーをご利用しますか？（利用する、利用しない）

質問3；お薬手帳ホルダーを利用しない理由（複数選択）

質問4；回答者の属性（性別、年代）